

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション
設置者名	学校法人渡邊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
コンピュータ 専門課程	情報社会学科	夜・通信	10	9	
	メディアコミュニケーション・CG映像クリエイター学科	夜・通信	6	6	
	メディアコミュニケーション・ウェブクリエイター学科	夜・通信	6	6	
	ビジネスライセンス学科		4	3	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ckg.ac.jp/public.php

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション
設置者名	学校法人渡邊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ckg.ac.jp/public.php

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	日本電算システム(株)	令和4年4月1日～令和7年3月31日	人事・広報
非常勤	(株)ヒューマンテクノシステム 取締役会長	令和4年4月1日～令和7年3月31日	組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション
設置者名	学校法人渡邊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学術機関の有識者、企業の役職員等からなる教育課程編成委員会で、カリキュラム内容、授業方法等について毎年2月に見直し・検討を行う。</p> <p>提案された方法や洗い出された課題を踏まえ、授業毎に科目担当教員で年間指導計画を作成し、教務部会議(教育課程班)で精査し決定する。</p> <p>この年間指導計画を基に、生徒の学習案内・学習の手引きとして、授業科目の目標や学習内容、評価方法などを詳しく示し、確かな学力育成に必要な情報を提供するため、シラバスを作成している。4月頃にホームページへ掲載し、学生や保護者に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.ckg.ac.jp/public.php
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>第1条 評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 学年末評価における100点法は、定期試験、実習・ゼミの成果、レポートの提出、履修状況等を総合的に評価するものとする。なお、履修状況とは、出席率・学習態度・小テスト・学習意欲等を参考として評価するものである。 3. 100点法評価の際、各科目とも平均点は最低60点を下限とする。 4. 100点法の44点未満は科目不合格とする。 5. 科目の出席時間数が、規定の時間数に満たないときは、当該科目の5段階評価は「1」とし、単位不認定とする。但し不足時間数の補講を行うことがある。この場合の評価は「2」とする。 6. 評価時は、各科目主任が学年全体のバランスを考慮しチェックする。 7. 試験中不正行為をした者は、当該科目の点数は0点とするが、他の科目の受験は損なわないものとする。 8. 就職のための提出書類に5段階評価が必要なときは、2年または3年の学年途中においても5段階評価を行う。 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>第1条 評価基準</p> <p>1. 各学年とも、100点法で評点を付け、学年末および科目の履修・修得終了時には100点法および5段階評定法で評価する。さらに、GPA(グレートポイントアベレージ)制度により、各授業科目の5段階評定の成績評価に対応した評点(GP・・・グレートポイント)を付与して履修科目の成績評定平均値を算出し、GPAに基づき学生の学修指導を行う。</p> <p>なお、5段階評定並びにGPの換算基準は下記のとおり。</p> <p>90点～100点は「5」 GP=4 80点～89点は「4」 GP=3 50点～79点は「3」 GP=2 44点～49点は「2」 GP=1 0点～43点は「1」 GP=0(不合格)</p> <p>成績分布状況の把握は、GPAのスコアに基づき学科ごとに順位を決定することにより把握する。</p> <p>また、下位四分の一の算定は、学科人数(休学者を除く)を4で割った整数部分を下位四分の一の人数とする。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.ckg.ac.jp/public.php
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>第3条 卒業判定</p> <p>第1項 卒業年次末において、次の各号に該当する者は、原則として原級留め置きとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学年末評価において、単位不合格の科目がある者。 2. 出席時間数が、出席すべき時間数の80%に満たない者。 3. 学費が未納である者。 4. 進路未決定の者。但し留学生は除く。 <p>第2項 該当する学生の卒業判定は、卒業判定会議で学院長が認定し、理事長が決定する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ckg.ac.jp/public.php

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション
設置者名	学校法人渡邊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ckg.ac.jp/public.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.ckg.ac.jp/public.php
財産目録	https://www.ckg.ac.jp/public.php
事業報告書	https://www.ckg.ac.jp/public.php
監事による監査報告（書）	https://www.ckg.ac.jp/public.php

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		コンピュータ 専門課程	情報社会学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93単位	49 単位	35 単位	50 単位	-	-
			134単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		244人	169人	18人	0人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）学術機関の有識者、企業の役職員等からなる教育課程編成委員会で、カリキュラム内容、授業方法等について毎年2月に見直し・検討を行う。提案された方法や洗い出された課題を踏まえ、授業毎に科目担当教員で年間指導計画を作成し、教務部会議（教育課程班）で精査し決定する。</p> <p>この年間指導計画を基に、生徒の学習案内・学習の手引きとして、授業科目の目標や学習内容、評価方法などを詳しく示し、確かな学力育成に必要な情報を提供するため、シラバスを作成している。</p> <p>4月頃にホームページへ掲載し、学生や保護者に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>第1条 評価基準</p> <p>1. 各学年とも、100点法で評点を付け、学年末および科目の履修・修得終了時には100点法および5段階評定法で評価する。さらに、GPA（グレートポイントアベラージュ）制度により、各授業科目の5段階評定の成績評価に対応した評点（GP・・・グレートポイント）を付与して履修科目の成績評定平均値を算出し、GPAに基づき学生の学修指導を行う。なお、5段階評定並びにGPの換算基準は下記のとおり。</p> <p>90点～100点は「5」 GP=4</p> <p>80点～89点は「4」 GP=3</p>

<p>50点～79点は「3」 GP=2 44点～49点は「2」 GP=1 0点～43点は「1」 GP=0（不合格）</p> <p>成績分布状況の把握は、GPAのスコアに基づき学科ごとに順位を決定することにより把握する。</p> <p>また、下位四分の一の算定は、学科人数（休学者を除く）を4で割った整数部分を下位四分の一の人数とする。</p> <p>2. 学年末評価における100点法は、定期試験、実習・ゼミの成果、レポートの提出、履修状況等を総合的に評価するものとする。なお、履修状況とは、出席率・学習態度・小テスト・学習意欲等を参考として評価するものである。</p> <p>3. 100点法評価の際、各科目とも平均点は最低60点を下限とする。</p> <p>4. 100点法の44点未満は科目不合格とする。</p> <p>5. 科目の出席時間数が、規定の時間数に満たないときは、当該科目の5段階評価は「1」とし、単位不認定とする。但し不足時間数の補講を行うことがある。この場合の評価は「2」とする。</p> <p>6. 評価時は、各科目主任が学年全体のバランスを考慮しチェックする。</p> <p>7. 試験中不正行為をした者は、当該科目の点数は0点とするが、他の科目の受験は損なわないものとする。</p> <p>8. 就職のための提出書類に5段階評価が必要なときは、2年または3年の学年途中においても5段階評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>卒業判定</p> <p>第1項 卒業年次末において、次の各号に該当する者は、原則として原級留め置きとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学年末評価において、単位不合格の科目がある者。 2. 出席時間数が、出席すべき時間数の80%に満たない者。 3. 学費が未納である者。 4. 進路未決定の者。但し留学生は除く。 <p>第2項 該当する学生の卒業判定は、卒業判定会議で学院長が認定し、理事長が決定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) クラス担任制の他、生徒一人一人に「カウンセラー」を配置している。カウンセラーとクラス担任による「個人面談」「家庭訪問」を実施し、保護者との連携を密とし、学修支援を強化している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
113人 (100%)	1人 (0.9%)	75人 (66.4%)	37人 (32.7%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界			

(就職指導内容) カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール
(主な学修成果(資格・検定等)) 合格実績 MOS Excel : 27名 情報検定3級 : 24名 ビジネス能力検定3級 : 24名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
306人	37人	12.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由、健康上の理由、家庭の事情、学力不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーと担任によるカウンセリング、家庭訪問、補講等取組んでいる		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		コンピュータ 専門課程	メディアコミュニケーション・ CG 映像クリエイター学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	6.2単位	4.2 単位	5.0 単位	3.1 単位	0	0
			1.2.3単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	41人	17人	18人	0人	18人		
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要） 学術機関の有識者、企業の役職員等からなる教育課程編成委員会で、カリキュラム内容、授業方法等について毎年 2 月に見直し・検討を行う。提案された方法や洗い出された課題を踏まえ、授業毎に科目担当教員で年間指導計画を作成し、教務部会議（教育課程班）で精査し決定する。</p> <p>この年間指導計画を基に、生徒の学習案内・学習の手引きとして、授業科目の目標や学習内容、評価方法などを詳しく示し、確かな学力育成に必要な情報を提供するため、シラバスを作成している。</p> <p>4 月頃にホームページへ掲載し、学生や保護者に公開する。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（概要）</p> <p>第 1 条 評価基準</p> <p>1. 各学年とも、100 点法で評点を付け、学年末および科目の履修・修得終了時には 100 点法および 5 段階評定法で評価する。さらに、GPA（グレートポイントアベレージ）制度により、各授業科目の 5 段階評定の成績評価に対応した評点（GP・・・グレートポイント）を付与して履修科目の成績評定平均値を算出し、GPA に基づき学生の学修指導を行う。なお、5 段階評定並びに GP の換算基準は下記のとおり。</p> <p>90 点～100 点は「5」 GP= 4 80 点～ 89 点は「4」 GP= 3 50 点～ 79 点は「3」 GP= 2 44 点～ 49 点は「2」 GP= 1 0 点～ 43 点は「1」 GP= 0（不合格）</p> <p>成績分布状況の把握は、GPA のスコアに基づき学科ごとに順位を決定することにより把握する。</p> <p>また、下位四分の一の算定は、学科人数（休学者を除く）を 4 で割った整数部分を下位四分の一の人数とする。</p> <p>2. 学年末評価における 100 点法は、定期試験、実習・ゼミの成果、レポートの提出、履修状況等を総合的に評価するものとする。なお、履修状況とは、出席率・学習態度・小テスト・学習意欲等を参考として評価するものである。</p> <p>3. 100 点法評価の際、各科目とも平均点は最低 60 点を下限とする。</p> <p>4. 100 点法の 44 点未満は科目不合格とする。</p> <p>5. 科目の出席時間数が、規定の時間数に満たないときは、当該科目の 5 段階評価は「1」とし、単位不認定とする。但し不足時間数の補講を行うことがある。この場合の評価は「2」とする。</p> <p>6. 評価時は、各科目主任が学年全体のバランスを考慮しチェックする。</p> <p>7. 試験中不正行為をした者は、当該科目の点数は 0 点とするが、他の科目の受験は損なわないものとする。</p>							

8. 就職のための提出書類に 5 段階評価が必要なときは、2 年または 3 年の学年途中においても 5 段階評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業判定 第 1 項 卒業年次末において、次の各号に該当する者は、原則として原級留め置きとする。 1. 学年末評価において、単位不合格の科目がある者。 2. 出席時間数が、出席すべき時間数の 80%に満たない者。 3. 学費が未納である者。 4. 進路未決定の者。但し留学生は除く。 第 2 項 該当する学生の卒業判定は、卒業判定会議で学院長が認定し、理事長が決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制の他、生徒一人一人に「カウンセラー」を配置している。カウンセラーとクラス担任による「個人面談」「家庭訪問」を実施し、保護者との連携を密とし、学修支援を強化している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	7人 (70%)	3人 (30%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界			
(就職指導内容) カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール			
(主な学修成果(資格・検定等)) 合格実績 なし			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーと担任によるカウンセリング、家庭訪問、補講等取組んでいる		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		コンピュータ 専門課程	メディアコミュニケーション・ ウェブクリエイター学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	6.2 単位	3.8 単位	5.6 単位	3.1 単位	-	-
			12.5 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		182人	127人	18人	0人	18人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要）学術機関の有識者、企業の役職員等からなる教育課程編成委員会で、カリキュラム内容、授業方法等について毎年 2 月に見直し・検討を行う。提案された方法や洗い出された課題を踏まえ、授業毎に科目担当教員で年間指導計画を作成し、教務部会議（教育課程班）で精査し決定する。</p> <p>この年間指導計画を基に、生徒の学習案内・学習の手引きとして、授業科目の目標や学習内容、評価方法などを詳しく示し、確かな学力育成に必要な情報を提供するため、シラバスを作成している。</p> <p>4 月頃にホームページへ掲載し、学生や保護者に公開する。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（概要）</p> <p>第 1 条 評価基準</p> <p>1. 各学年とも、100 点法で評点を付け、学年末および科目の履修・修得終了時には 100 点法および 5 段階評定法で評価する。さらに、GPA（グレートポイントアベレージ）制度により、各授業科目の 5 段階評定の成績評価に対応した評点（GP・・・グレートポイント）を付与して履修科目の成績評定平均値を算出し、GPA に基づき学生の学修指導を行う。なお、5 段階評定並びに GP の換算基準は下記のとおり。</p> <p>90 点～100 点は「5」 GP= 4 80 点～ 89 点は「4」 GP= 3 50 点～ 79 点は「3」 GP= 2 44 点～ 49 点は「2」 GP= 1 0 点～ 43 点は「1」 GP= 0（不合格）</p> <p>成績分布状況の把握は、GPA のスコアに基づき学科ごとに順位を決定することにより把握する。</p> <p>また、下位四分の一の算定は、学科人数（休学者を除く）を 4 で割った整数部分を下位四分の一の人数とする。</p> <p>2. 学年末評価における 100 点法は、定期試験、実習・ゼミの成果、レポートの提出、履修状況等を総合的に評価するものとする。なお、履修状況とは、出席率・学習態度・小テスト・学習意欲等を参考として評価するものである。</p> <p>3. 100 点法評価の際、各科目とも平均点は最低 60 点を下限とする。</p> <p>4. 100 点法の 44 点未満は科目不合格とする。</p> <p>5. 科目の出席時間数が、規定の時間数に満たないときは、当該科目の 5 段階評価は「1」とし、単位不認定とする。但し不足時間数の補講を行うことがある。この場合の評価は「2」とする。</p> <p>6. 評価時は、各科目主任が学年全体のバランスを考慮しチェックする。</p> <p>7. 試験中不正行為をした者は、当該科目の点数は 0 点とするが、他の科目の受験は損なわないものとする。</p>							

8. 就職のための提出書類に 5 段階評価が必要なときは、2 年または 3 年の学年途中においても 5 段階評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業判定 第 1 項 卒業年次末において、次の各号に該当する者は、原則として原級留め置きとする。 1. 学年末評価において、単位不合格の科目がある者。 2. 出席時間数が、出席すべき時間数の 80%に満たない者。 3. 学費が未納である者。 4. 進路未決定の者。但し留学生は除く。 第 2 項 該当する学生の卒業判定は、卒業判定会議で学院長が認定し、理事長が決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制の他、生徒一人一人に「カウンセラー」を配置している。カウンセラーとクラス担任による「個人面談」「家庭訪問」を実施し、保護者との連携を密とし、学修支援を強化している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 (100%)	1人 (3.7%)	17人 (63.0%)	9人 (33.3%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界			
(就職指導内容) カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール			
(主な学修成果(資格・検定等)) 合格実績 情報活用試験 3 級 : 29 名 ビジネス能力検定 3 級 : 23 名 MOS Excel : 22 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69人	2人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由、健康上の理由、家庭の事情、学力不足		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーと担任によるカウンセリング、家庭訪問、補講等取組んでいる		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業関係	コンピュータ 専門課程	ビジネスライセンス 学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31単位	18 単位	17 単位	-	-	-
		35単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人	0人	0人	18人	0人	18人		
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要）学術機関の有識者、企業の役職員等からなる教育課程編成委員会で、カリキュラム内容、授業方法等について毎年2月に見直し・検討を行う。提案された方法や洗い出された課題を踏まえ、授業毎に科目担当教員で年間指導計画を作成し、教務部会議（教育課程班）で精査し決定する。</p> <p>この年間指導計画を基に、生徒の学習案内・学習の手引きとして、授業科目の目標や学習内容、評価方法などを詳しく示し、確かな学力育成に必要な情報を提供するため、シラバスを作成している。</p> <p>4月頃にホームページへ掲載し、学生や保護者に公開する。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（概要）</p> <p>第1条 評価基準</p> <p>1. 各学年とも、100点法で評点を付け、学年末および科目の履修・修得終了時には100点法および5段階評定法で評価する。さらに、GPA（グレートポイントアベレージ）制度により、各授業科目の5段階評定の成績評価に対応した評点（GP・・・グレートポイント）を付与して履修科目の成績評定平均値を算出し、GPAに基づき学生の学修指導を行う。なお、5段階評定並びにGPの換算基準は下記のとおり。</p> <p>90点～100点は「5」 GP=4 80点～89点は「4」 GP=3 50点～79点は「3」 GP=2 44点～49点は「2」 GP=1 0点～43点は「1」 GP=0（不合格）</p> <p>成績分布状況の把握は、GPAのスコアに基づき学科ごとに順位を決定することにより把握する。</p> <p>また、下位四分の一の算定は、学科人数（休学者を除く）を4で割った整数部分を下位四分の一の人数とする。</p> <p>2. 学年末評価における100点法は、定期試験、実習・ゼミの成果、レポートの提出、履修状況等を総合的に評価するものとする。なお、履修状況とは、出席率・学習態度・小テスト・学習意欲等を参考として評価するものである。</p> <p>3. 100点法評価の際、各科目とも平均点は最低60点を下限とする。</p> <p>4. 100点法の44点未満は科目不合格とする。</p> <p>5. 科目の出席時間数が、規定の時間数に満たないときは、当該科目の5段階評価は「1」とし、単位不認定とする。但し不足時間数の補講を行うことがある。この場合の評価は「2」とする。</p> <p>6. 評価時は、各科目主任が学年全体のバランスを考慮しチェックする。</p>							

7. 試験中不正行為をした者は、当該科目の点数は0点とするが、他の科目の受験は損なわないものとする。
8. 就職のための提出書類に5段階評価が必要なときは、2年または3年の学年途中においても5段階評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業判定 第1項 卒業年次末において、次の各号に該当する者は、原則として原級留め置きとする。 1. 学年末評価において、単位不合格の科目がある者。 2. 出席時間数が、出席すべき時間数の80%に満たない者。 3. 学費が未納である者。 4. 進路未決定の者。但し留学生は除く。 第2項 該当する学生の卒業判定は、卒業判定会議で学院長が認定し、理事長が決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制の他、生徒一人一人に「カウンセラー」を配置している。カウンセラーとクラス担任による「個人面談」「家庭訪問」を実施し、保護者との連携を密とし、学修支援を強化している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (100%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界			
(就職指導内容) カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール			
(主な学修成果(資格・検定等)) 合格実績			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセラーと担任によるカウンセリング、家庭訪問、補講等取組んでいる		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報社会学科	100,000 円	700,000 円	240,000 円	施設設備費 160,000 円 教科書他 80,000 円
メディアコミュニケーション CG映像クリエイター学科	100,000 円	750,000 円	240,000 円	施設設備費 160,000 円 教科書他 80,000 円
メディアコミュニケーション ウェブクリエイター学科	100,000 円	700,000 円	240,000 円	施設設備費 160,000 円 教科書他 80,000 円
ビジネス ライセンス学科	100,000 円	350,000 円	240,000 円	施設設備費 160,000 円 教科書他 80,000 円
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ckg.ac.jp/public.php		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本学院における「自己評価委員会」の学校運営、教育課程、進路状況等学生支援等の結果の妥当性を審議し、透明性を高める事を目的とすることを基本方針としている。 委員は「業界企業」「卒業生」「在校生の保護者」「その他学院長が必要と認める者」の内から学院長が委嘱する4名以上の委員により構成され、毎年5月に開催する。 抽出された問題点については「学院長」主導による改善を年度末までに完了する方針となっている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
日本電算システム(株)	令和6年3月21日～ 令和8年3月20日	企業委員
日本電算システム(株)	令和6年3月21日～ 令和8年3月20日	企業委員
日本電算システム(株)	令和6年3月21日～ 令和8年3月20日	企業委員
主婦	令和6年3月21日～ 令和8年3月20日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ckg.ac.jp/public.php		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<https://www.ckg.ac.jp/public.php>

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	H140313000751	学校名	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション
設置者名	学校法人渡邊学園		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	563,436,103円	490,705,065円	72,731,038円
申請2年度前の決算	619,937,220円	496,636,434円	123,300,786円
申請3年度前の決算	650,034,155円	434,196,764円	215,837,391円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	1,714,760,798円	462,398,490円	1,252,362,308円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	490人	467人	95%
前年度	600人	405人	67%
前々年度	600人	485人	80%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業生数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況			#DIV/0!

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。